

## おしどり夫婦で農地を守る



▲園芸用貸出機械を活用し、ブロッコリーの定植作業を2人で。旬の時期をずらした抑制栽培に取り組み、直売所での売り上げアップを狙う

### プロフィール Profile

彦根市高宮町  
馬場 喜代一さん(65)  
えつこ 悅子さん(62)

#### 主な生産作物

作物名	作付面積
水稻	20a
野菜類	20a

(令和3年度実績)



▲師匠と栽培について話す喜代一さん

## 高宮町の豊かな「まちづくり」に貢献したい

私たちが住む高宮町は、農地の減少が止まらない地域です。生まれ年の昭和31年から現在までの間、8割強の農地が宅地や工場になりました。また、小規模な開発が連続することで水に関する問題も見過ごせなくなっています。私たちの農地から徐々につながりの輪を広げ、農業の多面的機能の発揮や地産地消の推進などによる地域の活性化、いわゆる「まちづくり」に少しでも貢献できればと考えています。1戸の力では到底及びませんが、私たちが懸命に取り組むことで何かが変われば何よりです。

\*1農業の多面的機能…畔間に囲まれている水田や水を吸収しやすい土壌が雨水を一時的に貯留し、時間をかけて徐々に下流に流すことによって洪水の発生を防止・軽減させるほか、生物多様性保全機能や、良好な景観の形成機能、保健休養機能など、農業が営まれることにより発揮される様々な機能

キャベツやブロッコリー、ナスなどを「やさいの里一番館」や学校給食へ出荷しています。定年退職をきっかけに、昨年2月から野菜づくりを本格的に始めました。途中から妻も収穫作業を中心に行っています。もともと会社員時代から稻作はしていましたものの、将来の農業機械の修理や買い替え費用などを考え、農地の半分を比較的低コストでできる畑作へ切り替えました。規模が小さいため儲けは重視できませんが、「農業収入で趣味のゴルフと旅行ができるなら合格だね」と一人で話しています。

## 昨年から直売所出荷をスタート

## 近所付き合いが希薄化する現代だからこそ



▲師匠や友人、JA担当者など、つながりの輪がどんどん広がっていく

農業を始めるにあたり、直売所で売れる野菜づくりに向けたJA當農指導員のサポートがあり、大変助かっています。また、ベテラン農家の馬場委平さんに、畑の先輩として教えてもらっています。大変親身になって教えていただき、私たちにとって師匠のような存在です。野菜づくりを始めて、こういったご縁や、おそらく分けなどにより近所さんとのつながりが強くなりました。近所付き合いが希薄になりましたが、今の時代だからこそ、畑を始めて本当に良かったと思っています。



▲周辺の農地が次々と造成されていく中だからこそ、農業を続け守っていくと決めた